

湖北の Art Brut in KOHOKU 2021 アール・ブリュット

2021

— 地域と共に育ち、生きる —

入場無料

2021 9月15日 水 — 2021 10月11日 月

会場

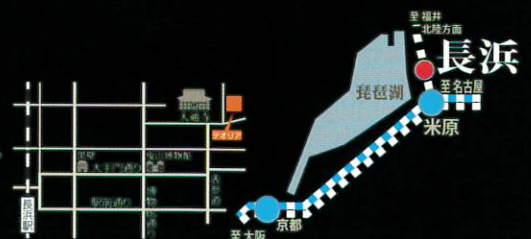
十里街道生活工芸館
滋賀県長浜市神前町 1-24
TEL: 0749-65-7341
開館時間: 10:00 ▶ 16:00
休館日: 火曜日

アール・ブリュット



アール・ブリュットとは、芸術の伝統的な訓練を特に受けず、受け入れた知識に汚されず、既成の芸術の流派や傾向、流行などに一切とらわれることもなく、また名声を目指すでもなく、何者にも影響されない作家自身の創造力の源泉から湧き上がる真に自発的で自然発生的な芸術表現のこと。この機会にぜひ「生の芸術」をご鑑賞ください。

■主催: 湖北アール・ブリュット展推進会議・「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会
■協力: 滋賀湖北会 ■後援: 長浜市



湖北アール・ブリュット展推進会議は、

創作の場づくりも推進しています。

Art Brut 創作工房 開設



一回上限5名程度で、しょうがいのある方を対象とした陶芸教室を開催します。あなたの感性と陶土とのふれあいの中で心豊かなひとときを過ごしていただくと共に、ステキな作品に期待します。



- 参加費：1,000円
(陶土代・講師料を含む)
- 参加資格：知的障害または精神障害がある方で、グループでの活動が可能な方
- 場 所：十里街道生活工芸館 テオリア (滋賀県長浜市神前町1-24)
- 開催予定日：2021年 9月・10月・11月 各月2日開催
各日程共に、午前・午後の2部制で開催します。
(午前の部=10:00~12:00、午後の部=13:30~15:30)
ご希望の日程をお知らせいただき、調整させていただきます。
申込みは、前月の25日を締切りとします。まずはお相談ください。
- お問合せ：生活工芸館 テオリア ☎0749-65-7341

※参加に際しては保護者もしくは支援者の同伴をお願いします。 ※出来上がった作品は、作者にお返しいたしますが、記録として写真を保存させていただきます。
※駐車スペースに限りがありますので、事前にお問い合わせください。

■主催：湖北アール・ブリュット展推進会議・「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会 ■協力：(社)湖北会

和菓子で共創!! アート体験

和菓子の材料「ねりきり」を使った
食べるアール・ブリュット。

こねる⇒つくる⇒鑑賞する⇒食べる のプロセスを楽しんでいただけます。できた作品は、写真撮影して記録保存した後、会場でみんなで食べて楽しんでいただけます。

- 一組は、参加する当事者と保護者・介助者を含めて上限を4名までとします。
- 材料に小麦粉を含みます。アレルギーがある方はご注意ください。
- マスクの着用等、感染対策にご留意ください。

ねりきりとは

練り切り(ねりきり)とは、和菓子の一つで、正しい名前は練り切りあんと言います。白あんに砂糖、山の芋や微塵粉(餅米の米粉・小麦粉)などのつなぎの食材を加え、調整し練った練り切りあん(白あん)を主原料とし、色合いを付け、四季折々の植物や風物詩をかたどる繊細な細工を施した生菓子自体のことを言うこともあり、祝儀や茶席で使う上生菓자에利用されています。

適度なやわらかさと粘度があり、これを様々な形を彫刻した木型に押し付けたり、手やへらで整形して細工を施し、食紅やクチナシ、合成着色料などの食用色素で彩色して、和菓子に仕上げ、季節に合わせた様々な色・形の物が作られています。



2021年 9月5日[日]・9月26日[日]
両日共に13:00より(15:00終了予定)
於：ながはま文化福祉プラザ さざなみタウン 調理室・和室
滋賀県長浜市高田町12番34号

参加者募集
一日限定
6組
まで

参加費：1,000円 (1組/当組、会場にて拝見いたします)
ご参加応募多数の際は抽選とさせていただきます。

■応募締め切り 9月5日実施 =8月20日(金)
9月26日実施 =9月10日(金)

和菓子で共創!!

アート体験

形だけでなく模様も楽しんでいただけるよう、木型もいくつかご用意します。形がはっきり決まった小さな木型ではなく、大振りのも型で一部分に押しつけて使い、面白い形をつくってみてください。



湖北アール・ブリュット展推進会議とは

創造性の源泉からほぼしる真に自発的な表現「アール・ブリュット」。このアール・ブリュットを広く普く浸透することを目的として、障害のある作家も多く活躍するアール・ブリュットの地位・認知度の向上を図るべく、湖北地域のしょうがい者による芸術作品を広く集め、展覧会を開催する団体です。

私たちは、作家(しょうがい者)に自立とやりがいを感じてもらえるものとなるよう、諸々の権利と作家の意向に留意しつつ、幅広く展開したいと考えています。